

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書 22 章 54～62 節＞

1 ペトロに起こったことから聞き取るべきこととは？

4 つの福音書それぞれが印象深い仕方で、私たち人間を代表し、しかもイエス様の一番弟子であったペトロの姿を追っている個所です。それはペトロ自身が後になって告白したと考えるしかない内容からなっています。「主は振り向いてペトロを見つめられた」(61)。イエス様はそこにはおられないので、これはその時にペトロが心の中で思ったことが語られているのです。少し前にイエス様が予告された言葉を知るときに、「振り向いて」「見つめられた」、という言葉の深い意味が見えて来ます。

2 主が予告された言葉に注目。 22 章 31～34 節。

イエス様は最後の晩餐の後、ペトロに、「シモン、シモン、サタンはあなたがたを、小麦のようにふるいにかけることを神に願って聞き入れられた。しかし、わたしはあなたのために、信仰が無くならないように祈った。だから、あなたは立ち直ったら、兄弟たちをカづけてやりなさい」(22:31-32)、と語られました。この後、ペトロは、「主よ、御一緒になら、牢に入っても死んでもよいと覚悟しております」、と大口をたたき、主は、「あなたは今日、鶏が鳴くまでに、三度わたしを知らないと言うだろう」、と予告されたのです(33-34)。

3 気づき、激しく泣き、そして、赦して下さる主と新たに出会う。

ペトロはこの時、「あんなに偉そうなことを言ったのに」、と自分の情けなさに打ちのめされたので、「外に出て、激しく泣いた」(62)なのでしょう。「ふるいにかけられ」(31)、自分の罪深さを深く知らされたのです。まだ激しく泣くことしかできません。その彼のために祈って下さる主イエスがどのような方であるかをまだ知らないからです。主は、死を打ち破られ、彼の罪を赦し、「立ち直らせ」(32)、用いられるお方なのです。「立ち直らせ」と訳された語の原意は、「向きを変えさせ、方向転換させ」です。悪かったと反省して自分で立ち直ることはありません。このイエス様、神様の方に向きを変えて生き出す時に、神様が支えて下さることを確信しながら生きて行ける道が全ての人に用意されているのです！